

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年10月2日

予報期間：10月4日～11月3日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、向こう1か月は気温の高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

北日本では、期間のはじめはかなり高くなりますが、2週目はかなり低くなる所があり、気温の変動が大きいですでしょう。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

# 全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	20:40:40	30:30:40	40:40:20	
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
東日本	日本海側	10:20:70	20:40:40	40:30:30	
	太平洋側		30:40:30	40:30:30	
西日本	日本海側	10:10:80	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
沖縄・奄美		10:10:80	20:40:40	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:30:60	30:50:20	30:30:40
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

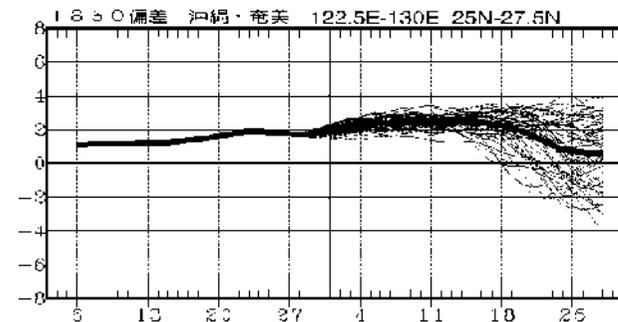
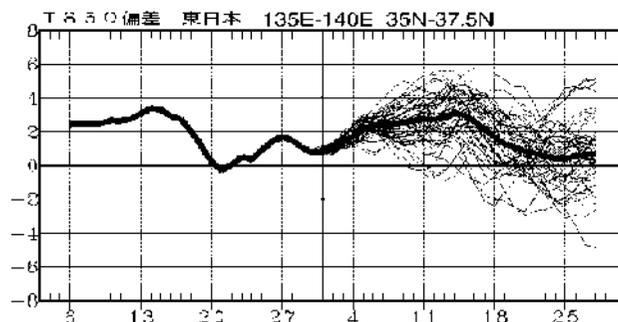
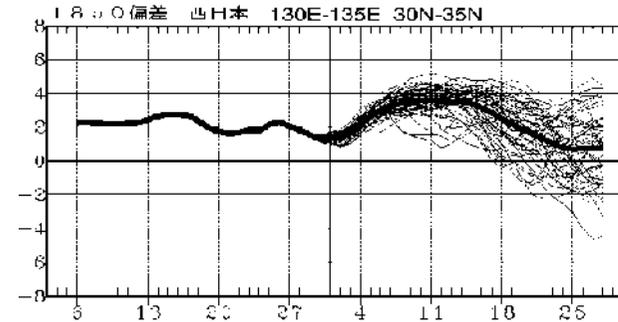
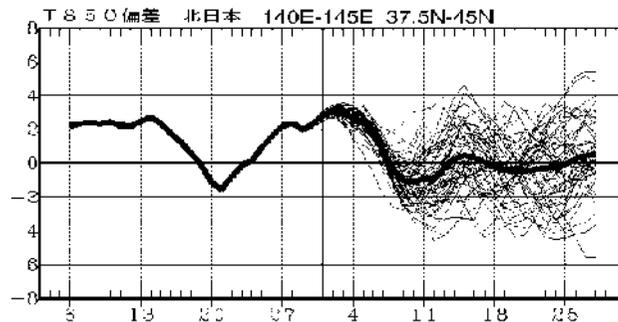
## 全般1か月予報のポイント

- ・東・西日本では6月中旬以降、沖縄・奄美では8月上旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・北日本では期間のはじめは、暖かい空気に覆われかなり高くなりますが、2週目は寒気の影響で低くなる所があり、気温の変動が大きいです。
- ・前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東日本日本海側と沖縄・奄美では、平年並か多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、北日本日本海側では、平年並か少ないでしょう。

# 各週における天候のポイント(気温)

	1週目(10/4~10/10)	2週目(10/11~10/17)	3~4週目(10/18~10/31)
想定される天候(気温)	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	東・西日本と沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすいため、かなり高いでしょう。 一方、北日本では平年並でしょう。	東・西日本と沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。 北日本では、ほぼ平年並。
根拠	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。 (P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本では平年並だが寒気の影響を受ける時期がある (P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本では、ほぼ平年並だが寒気の影響を受ける時期がある。 (P.8,P.12参照)

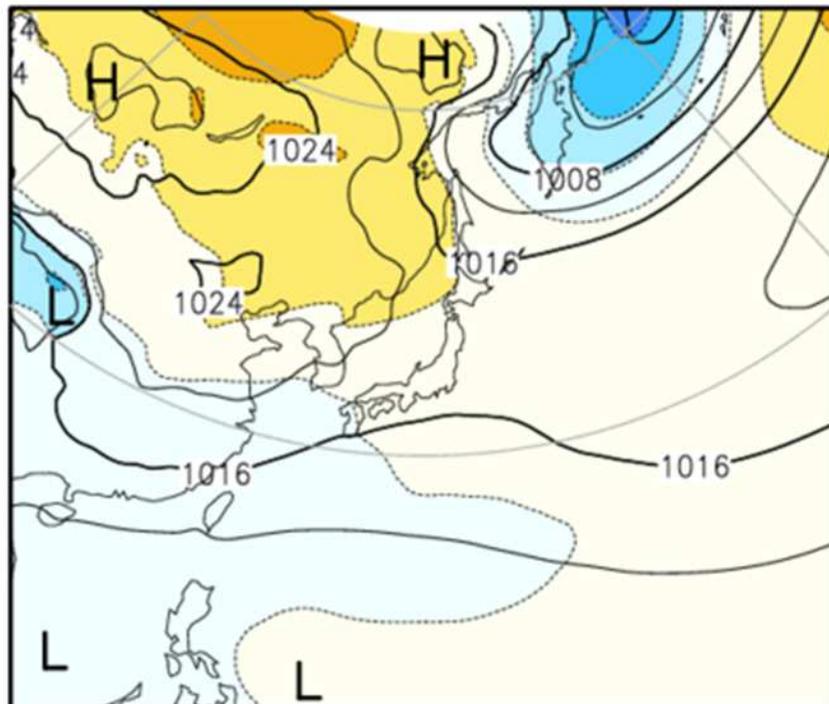
## 850hPa気温偏差時系列



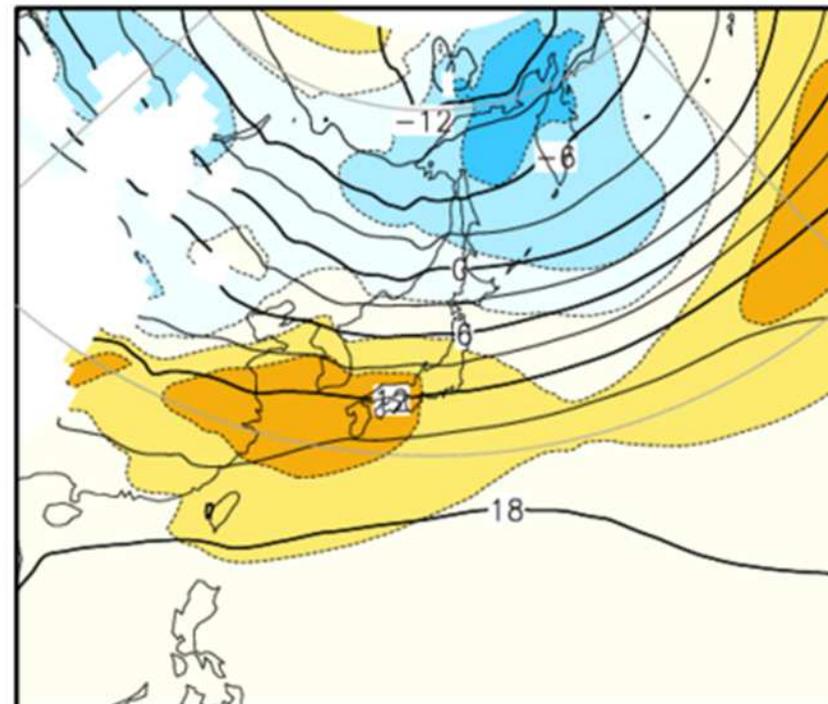
# 各週における天候のポイント(天気)

	1週目(10/4~10/10)	2週目(10/11~10/17)	3~4週目(10/18~10/31)
想定される天候(天気)	<p>北日本日本海側と東日本では、天気は数日の周期で変わります。</p> <p>北日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。</p>	<p>北・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>北・東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>東日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わります。</p>	<p>北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。</p> <p>北日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>東日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わります。</p>
根拠	<p>沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすい。</p> <p>また、北日本では低気圧や前線の影響を受ける時期がある。 (P.10-13参照)</p>	<p>大陸の高気圧が北日本付近に張り出すほか、日本の南東に太平洋高気圧があり、日本付近は気圧の谷となる。また、1週目は朝鮮半島付近にあった前線が本州の日本海沿岸付近に南下する。このため、東・西日本の日本海側を中心に前線や高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。沖縄・奄美では湿った空気の影響を受ける時期がある (P.10-13参照)</p>	<p>季節進行に伴い、太平洋高気圧はさらに東に後退する。ただし、平年に比べ高気圧の後退が遅いことから、前線は本州南岸付近に予想される。このため、西日本太平洋側を中心に、前線や高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。(P.10-13参照)</p>

## 海面気圧(1か月)



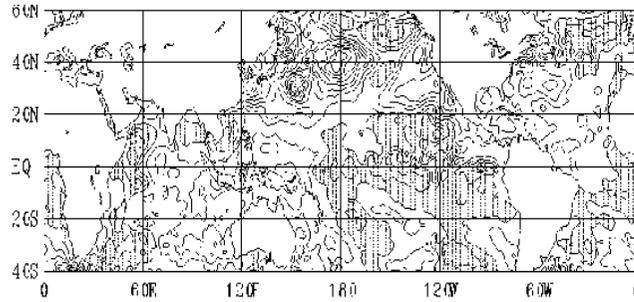
## 上空約1500mの気温(1か月)



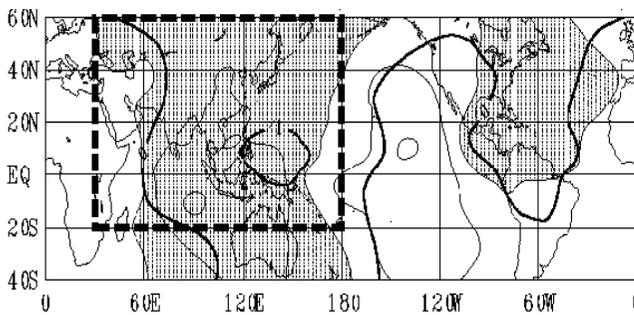
1か月平均の海面気圧(左図)は、大陸から日本の東にかけて高気圧が予想され、日本の南東では太平洋高気圧の東への後退が遅い状況が続くでしょう。一方、ベーリング海付近には低気圧が、華中から日本の南にかけては、気圧の谷が予測されています。このため、北・東日本日本海側では低気圧や前線の影響を、沖縄・奄美では前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、東・西日本と沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすいため、平年より高いと予測されています。一方、オホーツク海付近では平年より低いと予測され、北海道付近では寒気の影響を受ける時期があるでしょう。

# 予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

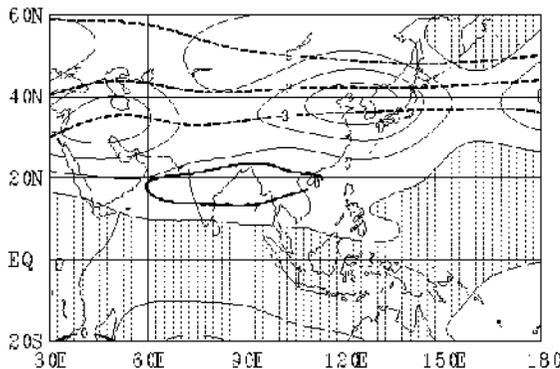
## SST偏差



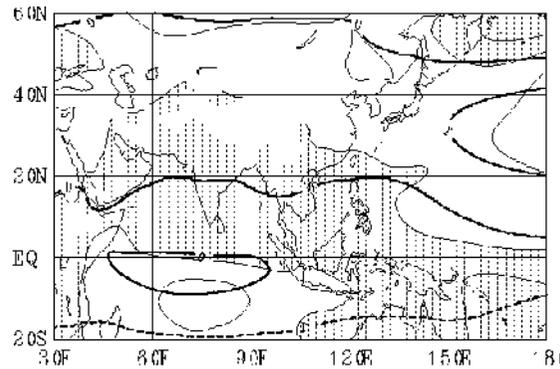
## 200hPa速度ポテンシャル



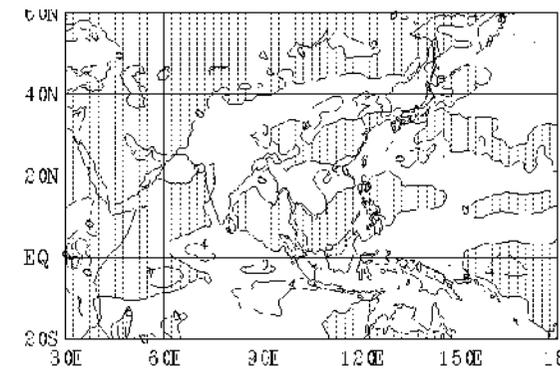
## 200hPa流線関数



## 850hPa流線関数



## 降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、東シナ海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に関連し、インドネシア付近を中心に発散偏差だが、太平洋熱帯域の中部で収束偏差。

200hPa流線関数は、寒帯前線ジェット気流及び亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の影響もあって、黄海付近を中心に高気圧性循環偏差。

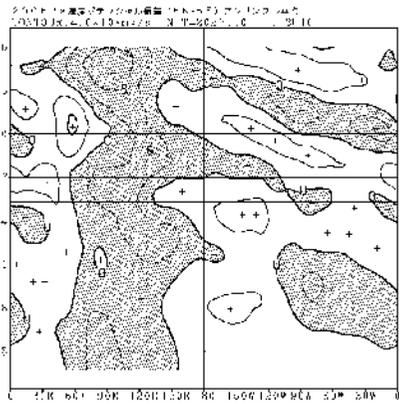
850hPa流線関数は、対流活動に関連しインド洋からフィリピン付近にかけて低気圧性循環偏差。一方、日本の南東海上では高気圧性循環偏差。

降水量は、インドシナ半島北部から東シナ海付近にかけて多雨偏差。



# 予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

## 200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



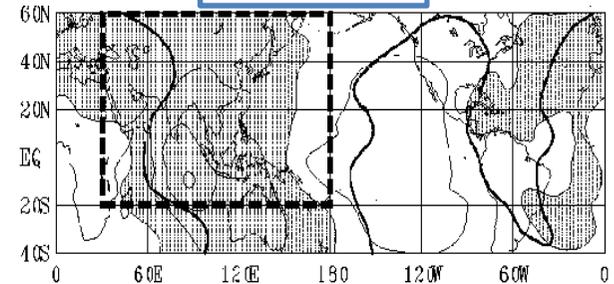
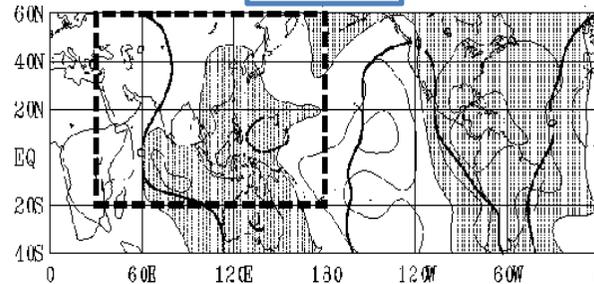
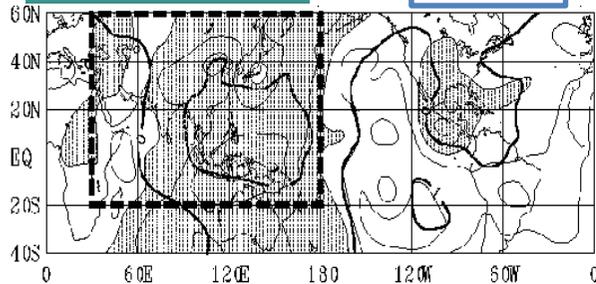
200hPa速度ポテンシャルは、インド洋東部からインドネシア付近で発散偏差、太平洋熱帯域の中部では収束偏差が持続する。降水量は、インドネシア付近を中心に多雨偏差が持続。インド洋北部から南シナ海付近では、1週目は少雨偏差だが、その後は次第に多雨偏差となる。日本付近では、1週目は、北海道付近で多雨偏差の一方、東・西日本と沖縄・奄美付近で少雨偏差、2週目は本州から沖縄・奄美付近で多雨偏差。3~4週目は、本州南岸から沖縄・奄美付近で多雨偏差。

### 200hPa速度ポテンシャル

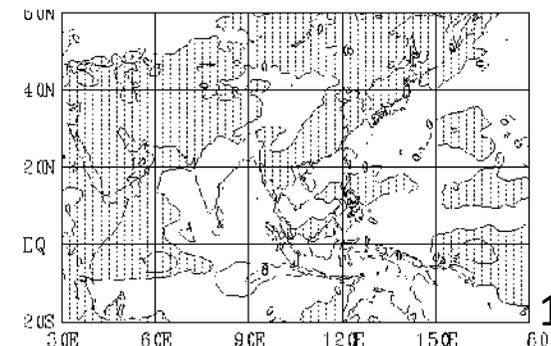
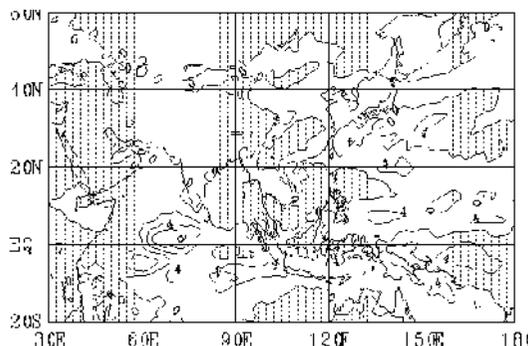
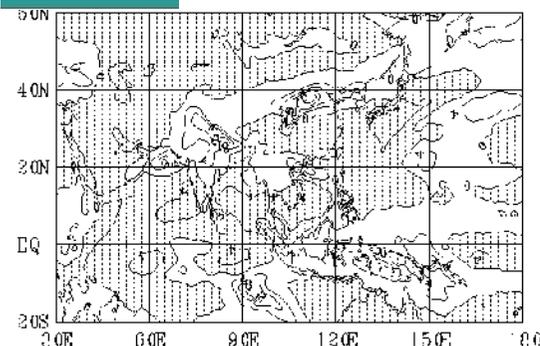
1週目

2週目

3~4週目



### 降水量

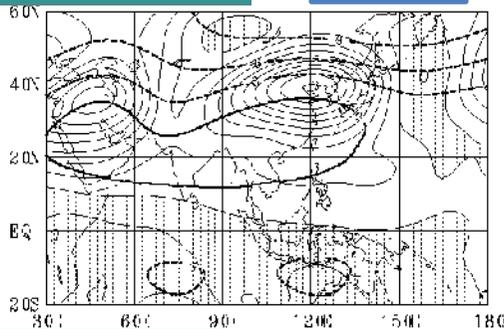


200hPa流線関数は、1週目は、黄海付近を中心に日本付近は高気圧性循環偏差に覆われる。2週目も、日本海付近を中心に高気圧性循環偏差。3~4週目は日本付近で弱いながら高気圧性循環偏差。

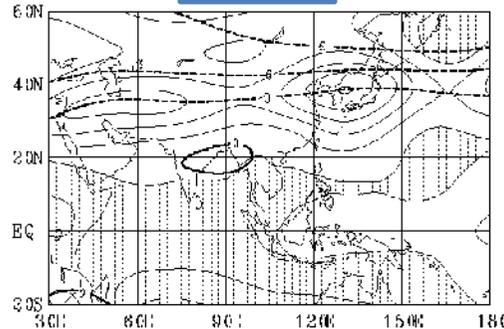
850hPa流線関数は、1週目は、東シナ海付近を中心に高気圧性循環偏差が強い(南シナ海付近の対流活動と上層の高気圧性循環偏差の影響)。2週目以降からは、フィリピン付近を中心に低気圧性循環偏差。一方、日本の南東では高気圧性循環偏差。

## 200hPa流線関数

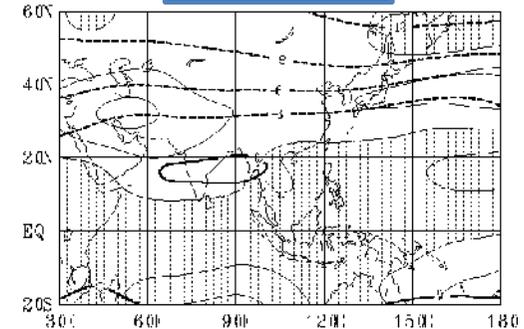
1週目



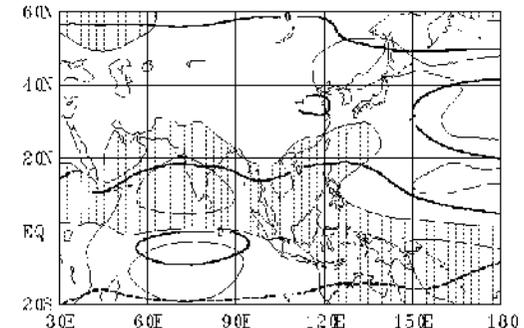
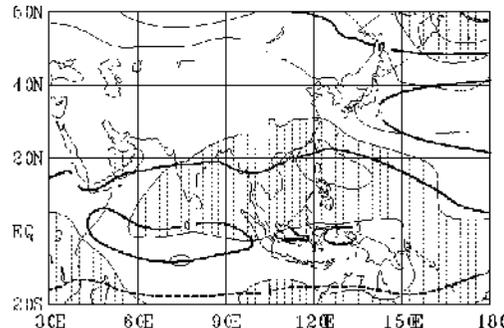
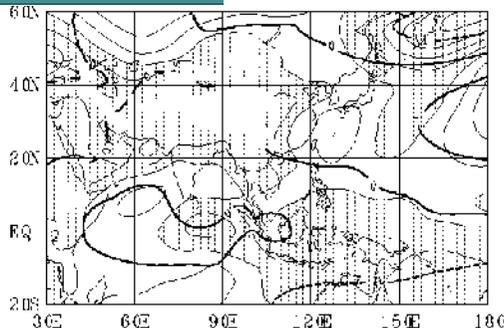
2週目



3~4週目



## 850hPa流線関数



500hPa高度は、日本付近は、期間の前半を中心に正の高偏差確率50%以上の領域にほぼ覆われる。1週目は寒帯前線ジェット沿いの波束伝播が明瞭で、西シベリア付近でリッジが発達し、2週目にかけてもリッジが持続する。

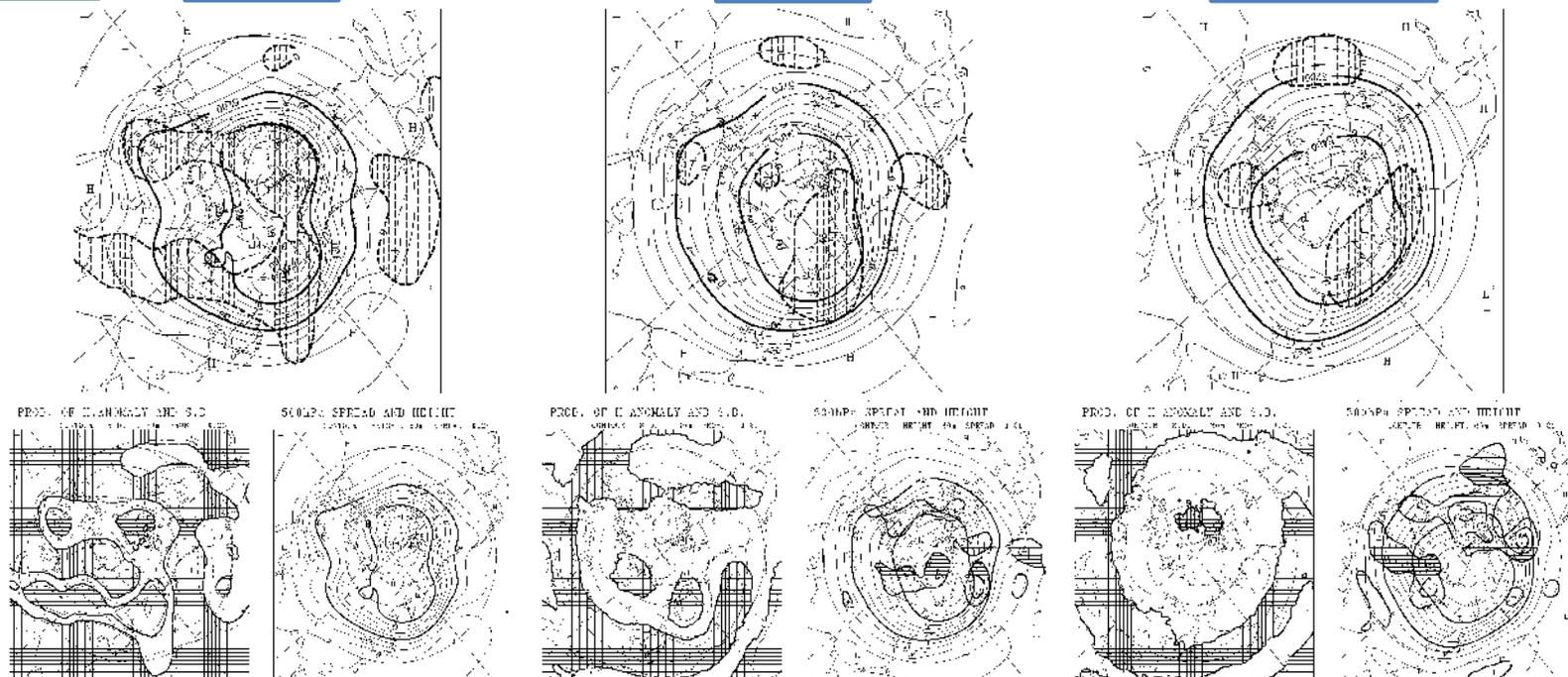
1週目は、正偏差の中心は黄海付近にあるが、日本の北では負偏差となり、日本付近は東谷。2週目は、日本海付近に正偏差の中心があるが、カムチャツカ半島付近では負偏差。3~4週目は、日本付近では正偏差だが、シベリア付近と日本の南東にスプレッドの大きい領域がみられ、不確実性があることに留意。

## 500hPa高度

### 1週目

### 2週目

### 3~4週目



# 予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、東・西日本と沖縄・奄美では正偏差に覆われる一方、北海道付近では2週目以降から負偏差で寒気の影響を受ける時期がある。

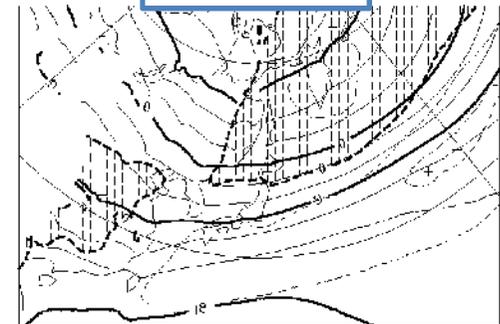
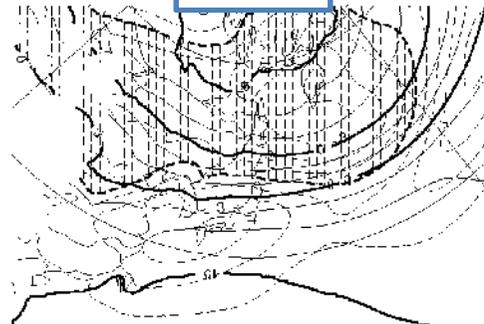
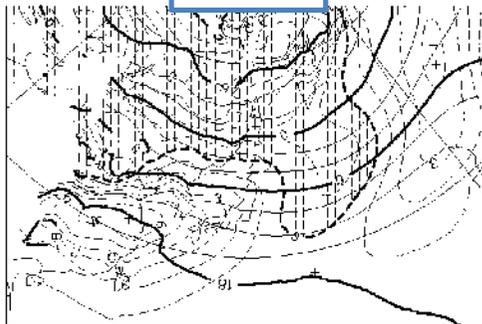
海面気圧は、大陸の高気圧は、1週目に西シベリアのリッジの影響で強まり、2週目以降、南東進する。1週目は、沖縄・奄美付近で高気圧が強く正偏差。ただし、オホーツク海付近では負偏差で北日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受ける時期がある。2週目は、寒帯前線ジェット沿いの波束伝播の影響で大陸の高気圧が強い一方、日本付近で気圧の谷となり、東・西日本日本海側と沖縄・奄美では、前線や高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。また、北日本では低気圧や寒気の影響でしぐれる時期がある。3~4週目には、日本付近では華北付近の高気圧が強い一方、本州南岸から沖縄・奄美では気圧の谷となり、前線や湿った空気を受けやすい時期がある見込み。

1週目

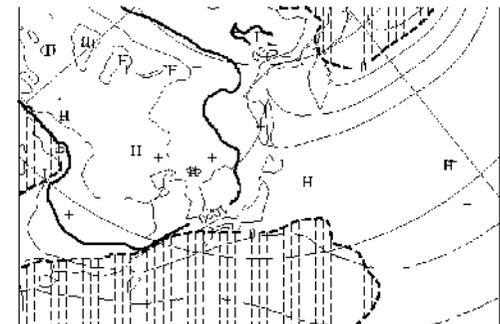
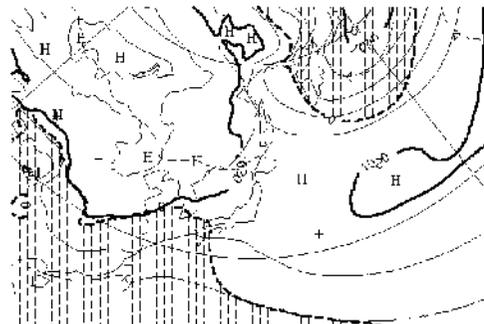
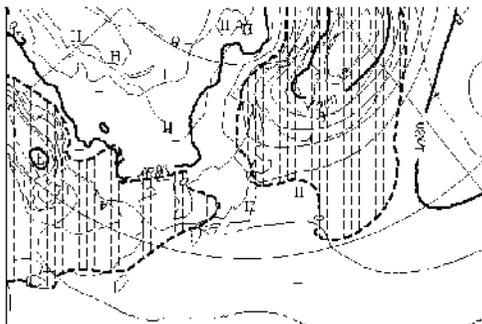
2週目

3~4週目

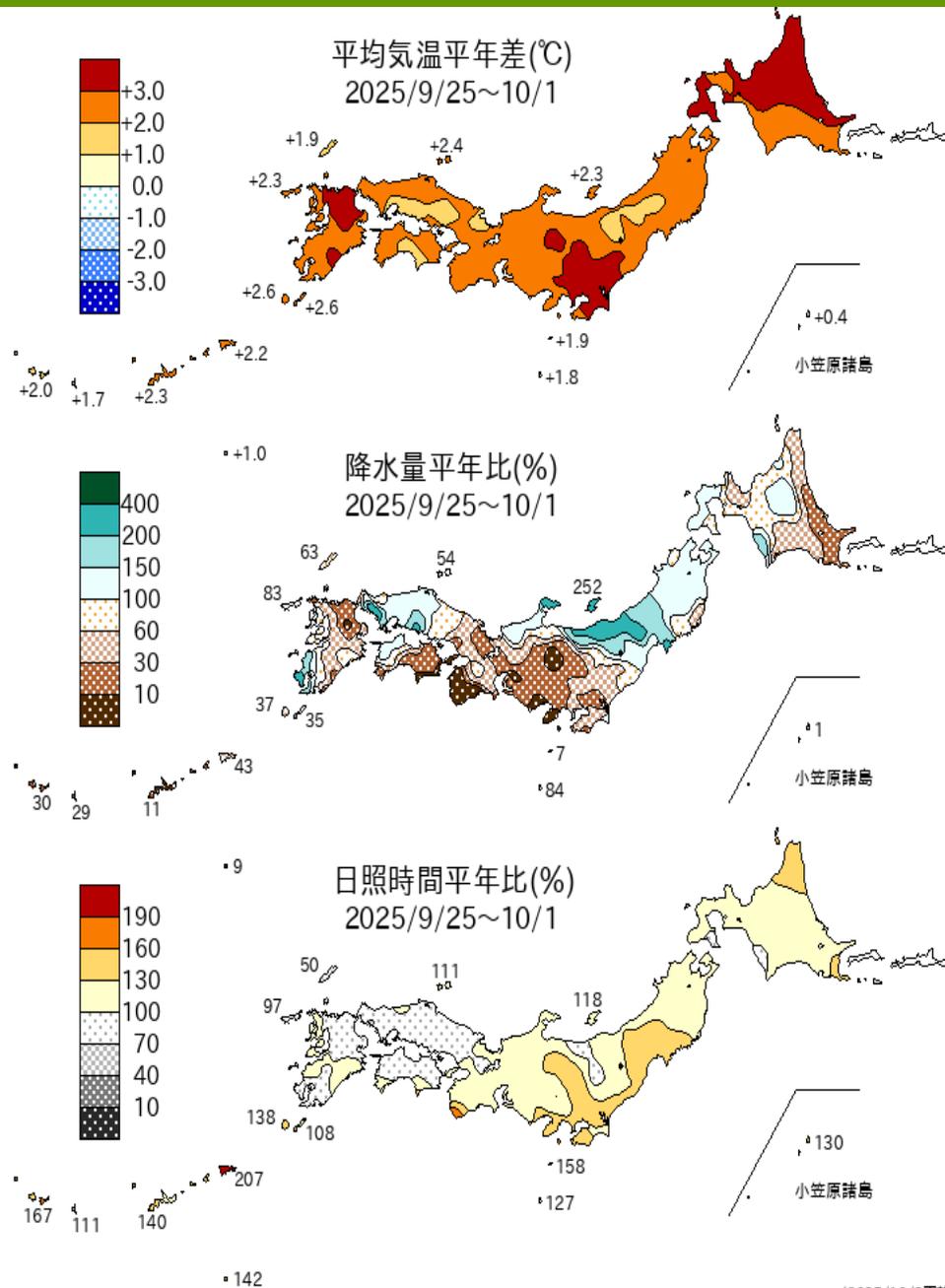
850hPa気温



海面気圧



# (参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(9月25日~10月1日)は、北・東・西日本では、低気圧や前線と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。これらのことから、降水量は、前線や湿った空気の影響を受けにくかった東日本太平洋側と、高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美では平年を大きく下回りました。一方、前線や湿った空気の影響を受けやすかった東日本日本海側と西日本では、平年を上回った所もありました。また、日照時間は北・東日本と沖縄・奄美では平年を上回りましたが、前線や湿った空気の影響を受けやすかった西日本では平年を下回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われるとともに、前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあり、全国的に平年を大きく上回りました。